

今号の作業

バッテリーカバーと 制御用基板を取り付ける

今号では、メインフレーム左側面にバッテリーカバーとエンブレムを取り付ける。また、所定の位置に取り付けた燃料タンク内カバー上に、59号で提供した制御用基板を組み込み、各コネクターの接続を行う。リアルな外観を実現するため、一部に追加加工を施すが、簡単な切削作業なので落ち着いて作業するよう心掛けよう。

今号のパーツ



- ①燃料タンク内カバー×1
- ②バッテリーカバー×1
- ③左サイドエンブレム×1
- ④ビス(Eタイプ)×2
(※1本は予備)

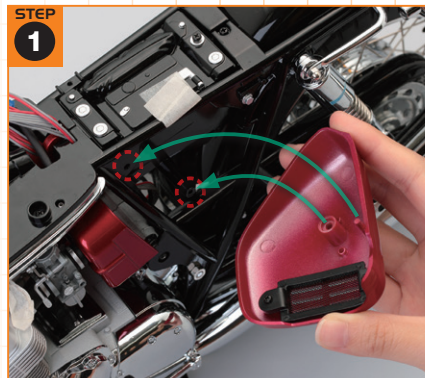
用意するもの

・マスキングテープもしくはビニールテープ
・瞬間接着剤(低白化タイプ)
・直線定規(10cm以上が測れるもの)
・燃料タンク(1号で提供したもの)
・制御用基板(59号で提供したもの)
・ビス(Gタイプ)×4(59号で提供したもの)
・メインフレーム
(61号、あるいは64号で組み立てたもの)
・ビニール袋(パーツが入っていた袋で可)
・油性ペン

使用する道具

- ・+(プラス)ドライバー(1番)
- ・ピンセット
- ・ニッパー
- ・ホビー用金属やすり

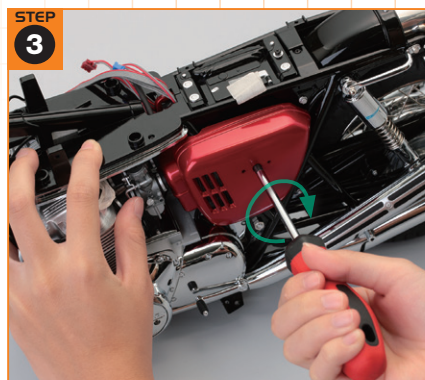
※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様が異なる場合があります。



61号(あるいは64号)で組み立てたメインフレームと、②バッテリーカバーを用意し、バッテリーカバー裏側に設けられた取り付けピンとポストを、写真で示したメインフレームの取り付け部に合わせてはめ込む。



バッテリーカバーが落ちないように保持したまま、④ビス(Eタイプ)を写真のビス穴にセットする。



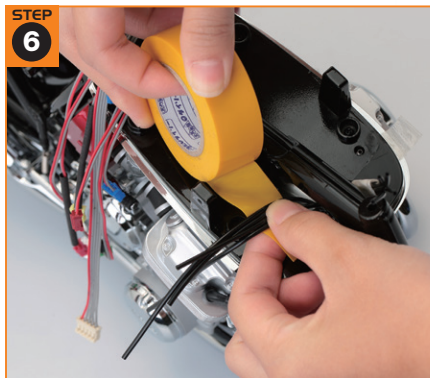
1番の+(プラス)ドライバーを使い、Eタイプのビスをねじ込んでバッテリーカバーを固定する。



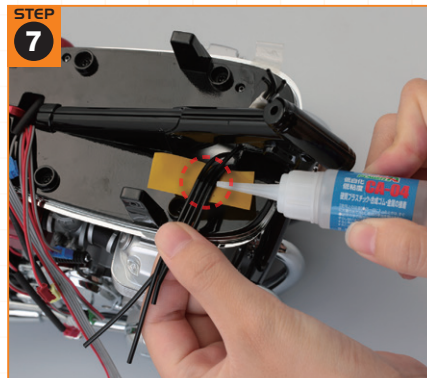
③左サイドエンブレムを用意し、裏面に設けられた取り付けピンをバッテリーカバーの取り付け穴にセットする。



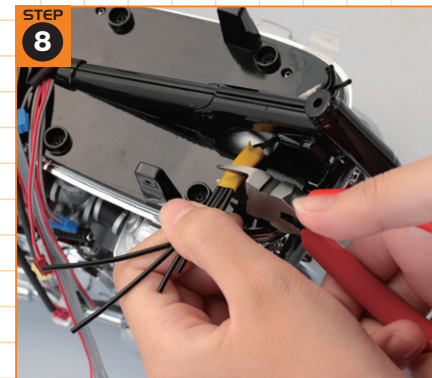
エンブレムを真っすぐに押し込んで、バッテリーカバーに取り付ける。



メインフレーム前側上部に引き出しておいた4本のプラグコードを、ビニールテープ、もしくはマスキングテープを使って“横並び”になるよう貼り付ける。



低白化タイプの瞬間接着剤を使い、写真で示した位置に少量を塗布して、4本のプラグコードを接着する。



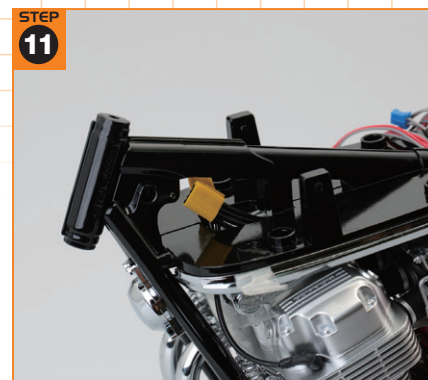
接着した部分にテープを巻き、ニッパーを使ってテープごとコードをカットする。



54号の組み立て作業で、マスキングテープで束ねたキャブレターチューブも、写真の位置で瞬間接着剤を使って4本を接着する。

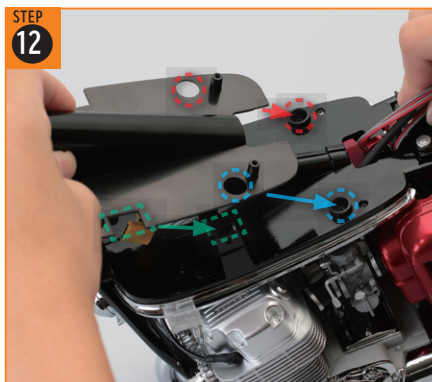


接着した部分にテープを巻き付け、ニッパーを使ってカットする。



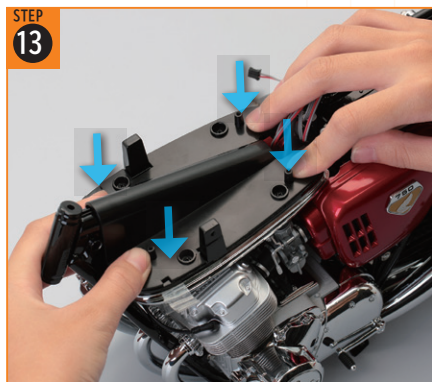
メインフレーム前側上部のスペースに、カットしたコード及びチューブの端を収納する。外側に飛び出さないよう、フレームの内側にまとめよう。

STEP
12



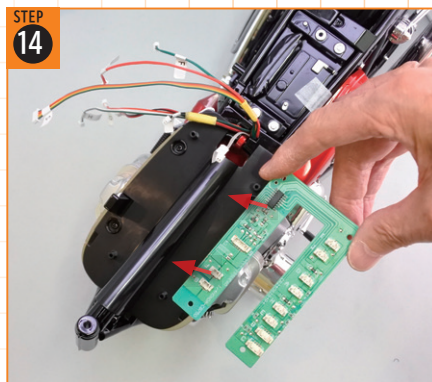
メインフレーム上部の取り付け位置に、加工した燃料タンク内カバーをセットする。フレーム上部に引き出したケーブルを挟まないよう注意すること。

STEP
13



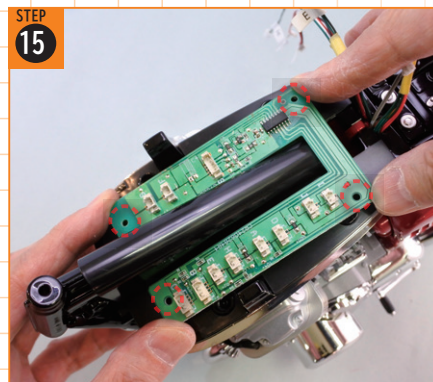
燃料タンク内カバーを真っすぐに押し込み、メインフレーム上部にはめ込む。

STEP
14



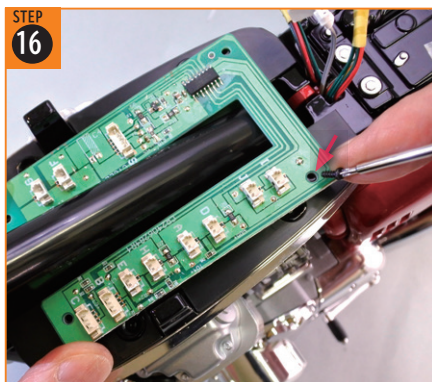
59号で提供した制御用基板を用意し、燃料タンク内カバーの上に、写真で示した向きでセットする。なお、基板の裏面には電子回路が組み込まれているので、指で直接触れないよう注意すること。

STEP
15



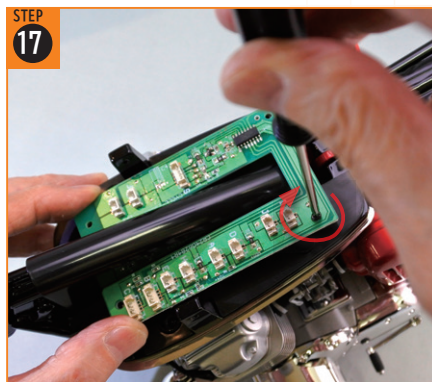
制御用基板の四隅に設けられたビス穴と、燃料タンク内カバーの上面に設けられた4本のポストの位置を合わせる。

STEP
16



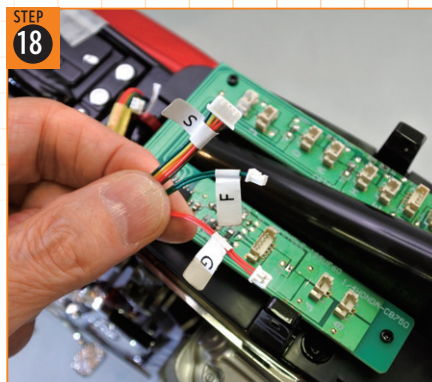
59号で提供したGタイプのビスを用意し、写真で示したビス穴にセットする。

STEP
17



1番の+(プラス)ドライバーを使い、Gタイプのビスをねじ込んで制御用基板を燃料タンク内カバーに固定する。計4カ所のビス穴それぞれにビスをセットしてねじ込もう。なお、ビスの締め込み加減は、基板がガタガタと動かなくなる程度でよい。

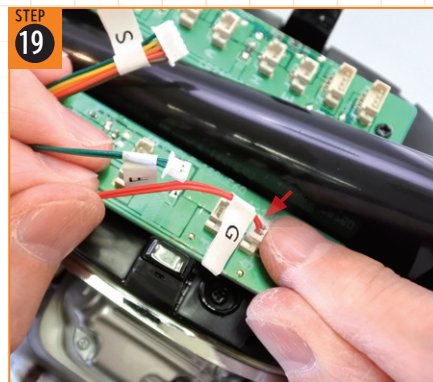
STEP
18



メインフレーム上部に引き出しておいたコネクターケーブルのうち、「S」5PIN、「F」2PIN、「G」2PINをより分けておく。この3本は制御用基板の右側に取り付ける。

【注意】各ケーブル先端のコネクターと制御用基板のソケットは、同じ「記号」と同じ端子数(PIN)同士を組み合わせるようになっている。なお、コネクターを差し込むときは、コネクターの樹脂ケース部分だけを持つようにし、ケーブル部分には絶対に力を加えないよう注意すること。また、基板上のソケットは「着脱」には対応していないので、差し込んだコネクターを引き抜くとトラブルを起こす場合がある。くれぐれも慎重に取り付けること。

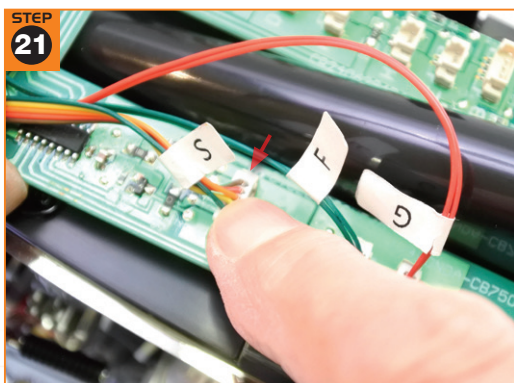
STEP
19



「G」2PINのコネクターを、写真で示した制御用基板のソケットに差し込む。差し込む向きは、コネクターの中央部分に線上のリブがある面を、ソケット中央に溝がある面に合わせる。(※制御用基板のソケットにコネクターを差し込む際、気を付けていただきたい点があります。詳しくは後述の「POINT」をご参照下さい)



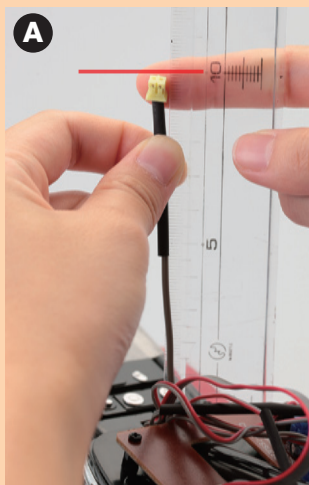
次に「F」2PINのコネクターを真っすぐに差し込む。



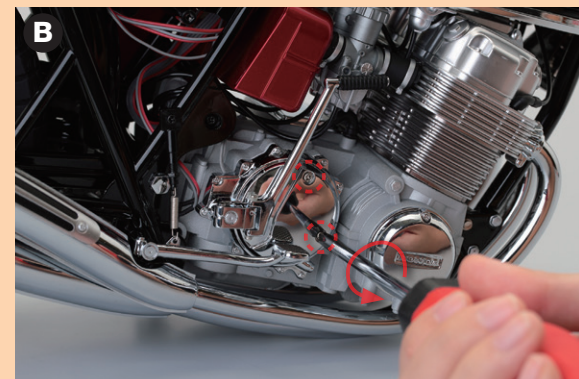
続いて「S」5PINコネクターをソケットに差し込む。これで基板右側のソケットへの取り付け作業は完了だ。

コネクターがソケットに届かない場合

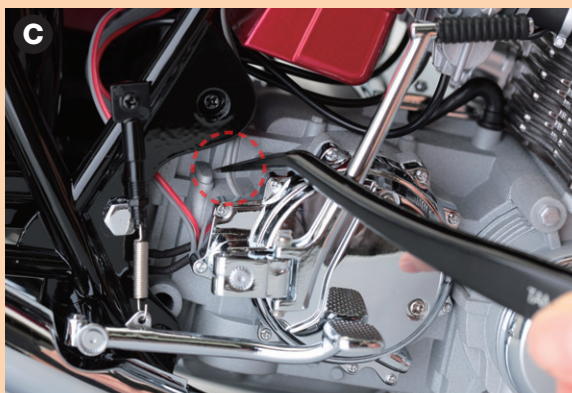
STEP20の「F」2PINコネクターを取り付けるとき、ケーブルの長さが足りず、コネクターがソケットに届かない場合がある。無理に引っ張ると断線トラブルの原因になってしまうので、そのときは以下の手順で対処するようにしよう。



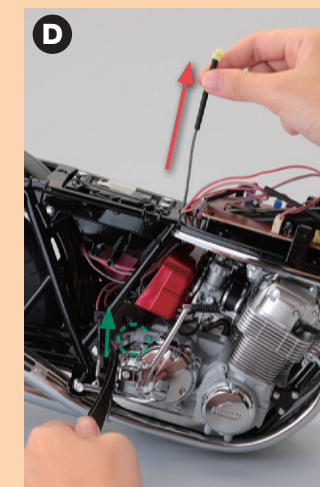
直線定規を用意し、メインフレーム上部から伸びたコネクターケーブルの長さを測る。10cmあれば問題なく取り付けることができるが、それよりも短い場合はB以下の手順で作業する。



47号で取り付けしたクラッチアジャスティングカバーを固定している2本のビス(写真参照)を、1番の+(プラス)ドライバーで緩める。

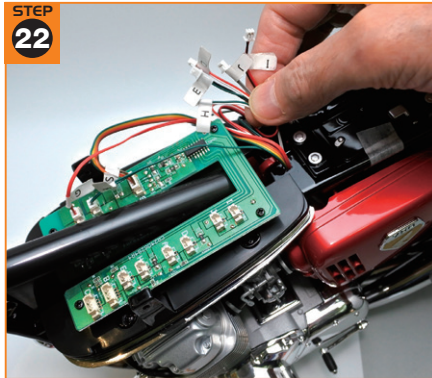


写真で示したグレーのケーブルをピンセットで軽くつまみ、上下に伸縮できるようになっていることを確認する。



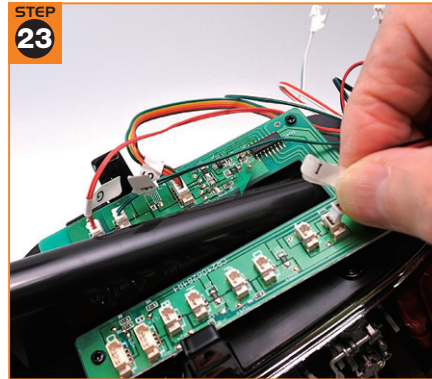
Cのケーブルをピンセットで上方向に少しずつ引き出し、「F」2PINコネクターケーブルを軽く引き上げ、ケーブルの長さが10cmになるように調整する。10cmまで引き出したら、Bで緩めたビスを締め込んでおく。なお、ケーブルを引き出すときは絶対に力を入れないように。

STEP
22



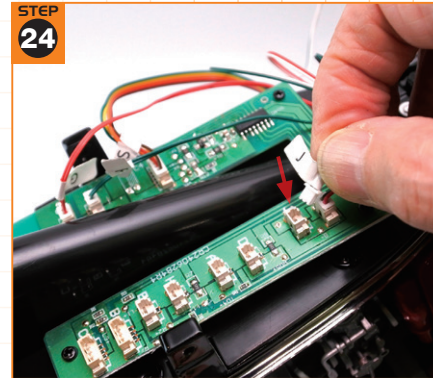
次に、残りのコネクタケーブルをまとめておく。51号で取り付けしたメインスイッチのコネクタケーブルもマスキングテープを外し、57号のSTEP25、26と同じ手順でメインフレーム上部に引き出しておく。

STEP
23



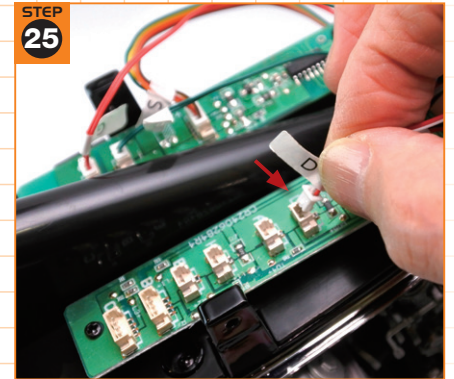
「I」2PINコネクタを写真のソケットに差し込む。

STEP
24



「J」2PINコネクタをソケットに差し込む。

STEP
25



「O」2PINコネクタを差し込む。

STEP
26



「H」2PINコネクタを差し込む。

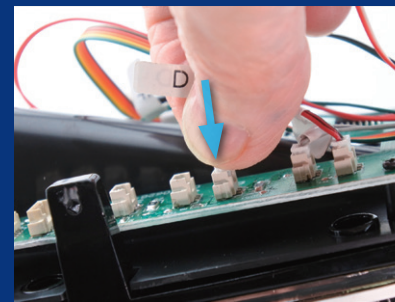
STEP
27



「E」2PINコネクタを差し込む。

POINT

基板中央部のソケットにコネクタを差し込むとき、そのまま押し込むと基板がたわんでしまう。トラブルを回避するためにも、必ず基板の縁を指で支えながら作業しよう。



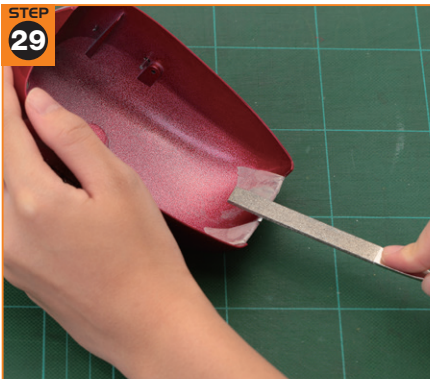
基板中央付近のソケットに、そのままコネクタを差し込むと、基板がたわんでしまう。そうすると、電子回路が断線する恐れがある。

基板の縁部分を指先で支え、基板がたわまないようにしてコネクタを差し込む。



STEP
28

1号で提供した燃料タンクを用意し、マスキングテープ、もしくはビニールテープを貼り、写真で示した突起部のみが露出するようにする。燃料タンクの両サイドに取り付けたロゴマークは、取り外しても構わない(作業中の脱落やロゴの塗装ははがれるのを防ぐため)。

STEP
29

ホビー用金属やすりを用意し、STEP28で残した突起部分を1~2mm程度削り落とす。このとき、燃料タンクの上部に傷が付かないよう、マスキングテープを貼っておくと良い。なお、加工に要する時間の目安は10~15分だ。

STEP
30

STEP19~21、23~27で取り付けたコネクターケーブルを軽く基板の上にまとめしておく。

STEP
31

写真で示した部分を指で軽く押さえ、ケーブルを引き出しているフレームの溝との間に“すき間”を開ける。各ケーブルが重なっている場合は、横並びになるよう調整すること。

STEP
32

STEP29で加工した燃料タンクを写真の位置にセットし、加工した突起部とケーブルとが干渉していないか確認する。このとき、燃料タンクを押し付けないよう注意すること。

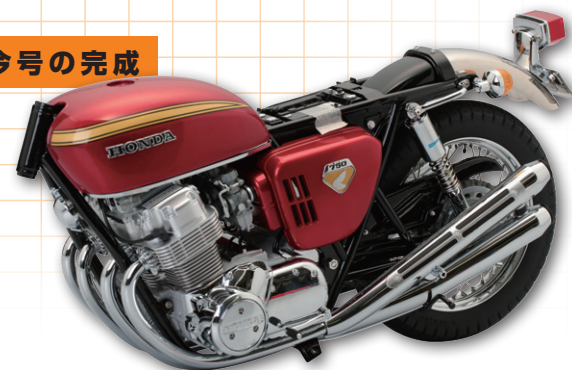
STEP
33

燃料タンクの加工部分とコネクターケーブルの引き出し溝を拡大した状態。写真のようになっていれば、突起とケーブルが干渉しないのでOKだ。燃料タンクをゆっくりと下ろしたとき、突起がケーブルに当たって下がらない場合は、突起部をもう少し削る必要がある。

STEP
34

STEP29~33を繰り返す。燃料タンクの突起部がコネクターケーブルに干渉しないことを確認したら、燃料タンクに貼ったテープを剥がし、メインフレームにかぶせる。なお、現段階では固定せず、“載せておくだけ”だ。

今号の完成



これで今回の作業は完了だ。最大のポイントは、「F」2PINコネクターケーブルの長さ調整と、燃料タンクの追加加工だ。コネクターケーブルを無理に引き出すと、断線トラブルを起してしまうので注意しよう。燃料タンクに追加加工を施したのは、4本のコネクターケーブルを“後ろ側の溝から引き出したこと”に対処するためだ。コネクターケーブルは、すべて溝の前にある開口部から引き出すこともできるが、その場合だと実車にはないケーブルがエンジン後方に露出してしまふ。できるだけリアルな仕上がりを楽しんでもらうため、あえて小加工を要する手順を紹介したというわけだ。なお、使用しなかった予備のビスは、油性ペンで号数を記載したビニール袋に入れて保管しておこう。組み立てたメインフレームも、次回の作業に備えて大切に保管しよう。